

No. 2

12月号

令和4年
2022・11・20



日立市視聴覚センター通信

みて、きいて、学びを楽しく

みきまた

編集・発行
日立市視聴覚センター
〒317-0073
日立市幸町1-21-1
電話：0294-24-5055
FAX：0294-24-5066

特集

3館タイアップ企画

昭和37年(1962)日立市制20周年記念事業として開館した日立市立記念図書館は、開館60周年を迎えました。記念企画の一つとして、**記念図書館**が主催し、当センター、郷土博物館の3館が連携し開催したイベントが、今回の「写真でたどる日立の歴史」です。**当センター**の映像セミナー室を会場に、9月27日(火)午前10時から11時30分まで、**郷土博物館**学芸員の萩原明子さんを講師に実施されました。これは、スクリーンに映し出された写真を鑑賞しながら日立の歴史をたどる講演会です。郷土博物館には膨大な写真史料が保管されています。今回はその中から、80点に絞り、解説を加え明治、大正、

「写真でたどる日立の歴史」

昭和の変遷をたどることで、ふるさと日立の魅力を再発見することが目的です。寒村から日立鉱山、そして日立製作所へと鉱工業のまちへと急激に発展、成長していく日立の姿は、共に過ごした一時代の懐かしい思い出として、参加者には感じられたようです。

時の一瞬を写し取る写真は、時代の空気感や人間の喜怒哀楽までも切り取る優れたメディアでもあります。

写真発明から180年が経過し、さらなる技術革新により、今日ではスマホのカメラも高性能化し、誰でもキレイな写真が簡単に手軽に撮影できるようになりました。

今日的な写真の価値を見直しつつ、今後もまた、3館連携のイベントを計画したいと思います。

紹介された昔の写真(一部)



明治36年頃 赤沢銅山祝賀会(日館蔵記念館提供)



大正13年 日立鉱山専用便乗車落成記念(郷土博氏提供)



昭和27年頃 平和通り(郷土和生氏撮影)



昭和38年頃 大橋を渡る乗り合いバス(菊地正友氏撮影)



講師・萩原学芸員による写真紹介

サンタクロースになった少年

フィンランド・アカデミー賞最高人気賞・
最優秀撮影賞

公開：2007年(日本では劇場未公開)

監督：ヨハ・ウリオキ

脚本：マルコ・レイノ

出演者：ハヌ・ベッカ・ビョルクマン
オットー・グスタフソン

極寒の地で孤児になった少年が歩んだ長い道のり。サンタクロースは、なぜサンタクロースになったのか？その少年時代に秘められた心温まり、胸熱くなるサンタクロース誕生の物語。

サンタクロースが住むという、フィンランドのラップランドで撮影した感動作品です。

貸出番号：1201152 時間：80分

今月の
オススメ
田中

※当センターの貸出作品から一押しDVDを毎月紹介します。

